

アイランダー高校生サミット開催報告

全国の一七の離島高校から五〇人を超える生徒が参加

本誌編集部

高校生・大学生による

実行委員会が企画・運営

本財団では、包括連携協定を結んでいる大正大学と共同で、「アイランダー高校生サミット2023（以下、サミット）」を二月九日（土）・一〇日（日）に開催しました。本サミットは、全国の離島の高校生をオンラインで結び、それぞれの島が持つ可能性や、島同士で交流することの意味、価値などを議論することで、自分たちが住む島の活性化策などについてアイデアを出し合い、地域創生につなげるとともに、参加者間の絆を創出することを目指すものです。二〇二二年一二月に試行的に実施し、将来の地域づくりを担う人材

の育成を高校生の頃から実施する意義を改めて確認できたことから、今回、本格的に開催することになりました。

実施にあたっては、島の高校に通う生徒六人（二二年のサミット参加者の中から選任）と、離島高校出身の大正大学生三人の計九人で実行委員会（菊地琉生委員長、大正大学四年）を組織。彼らが中心となってサミットのプログラムの作成、広報など全般的な企画・運営を行いました（委員の詳細はカコミ「実行委員を務めて」参照）。

実行委員会では、四月から準備を始め、八月初旬には東京にある大正大学に委員全員が集まり、親睦を深めるとともに、サミットのテーマや方向性、当日までの作業スケジュールなどについて



8月3日に行なった文部科学省での記者発表。サミットの概要について説明する菊地琉生実行委員長。

て話し合いました。また、国土交通省や各種メディアなどを訪問し、離島の高校生活やサミットの開催について自分たちでPR。文部科学省で行なった記者発表には、新聞社や通信社をはじめ多数のメディアが集まり、会見の様子は多くの媒体で報じられました。

二日間にわたるプログラム

今回のサミットのテーマは「思い合って、高め合って、日常に続いていく」。

参加高校一覧

北海道礼文高校、北海道興尻高校◎、東京都立大島高校、東京都立八丈高校、神奈川県立横浜国際高校※、新潟県立佐渡高校、広島県立広島観智学園高校、広島県立大崎海星高校◎、島根県立隠岐島前高校◎、愛媛県立松山北高校中島分校、長崎県立志岐高校、長崎県立五島海陽高校、長崎県立奈留高校、屋久島おおぞら高校（通信制）、沖縄県立泊高校（通信制課程）◎、沖縄県立宮古高校、沖縄県立八重山高校◎

※離島の高校ではないが特別参加

これには「いろいろな島の高校生がつながり、互いを理解し合い、切磋琢磨することは重要。でも、それが一過性のものでなく日常に活かされてこそ本当に意味がある」という、実行委員たちの想いが込められています。

また、試行的に実施した前回のサミットが一日のみの開催だったのに対し、今回は二日間のプログラムとしました。これは、一日だけではできないことに限りがある、もう少し深く交流したかったという実行委員の意見を反映したものです。しかし、実際に参加者の募集を開始したところ、土曜授業や部活、模試があるなど関心があっても両日の都合がつかない生徒も多いことが分かり、協議の上、どちらか一日のみの参加でも可能としました。

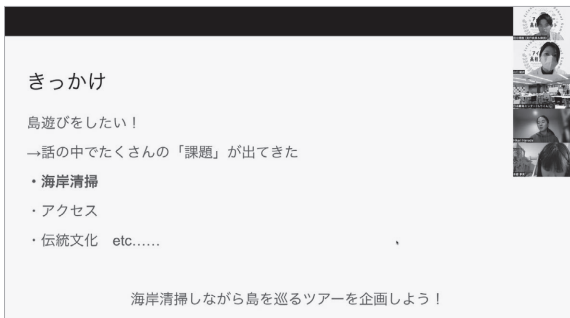
その結果、北海道礼文島から沖縄県石垣島まで全国から一七校（上表参照）延べ五一人の高校生たちが参加し、活発な交流が行なわれました。

離島のツアーやゲームを提案

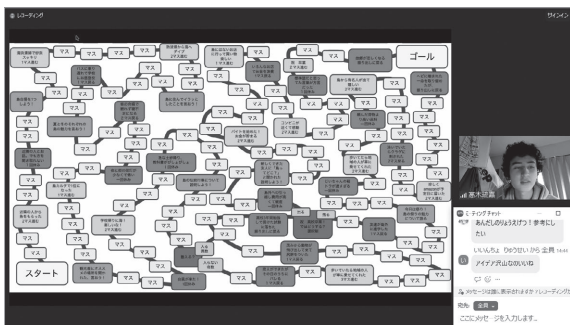
サミット参加者たちは、「うずうず！みんなの島に遊びにいかうや！」「どきどき！ 離島満喫ライフゲームづくり！」「わくわく！ 魅力や課題で新プロジェクト！」の三つの題材のなかから自分の関心のあるテーマを選択、グループに分かれてワークを行なっていました。

一日目は、雑談も交えながら互いの島を紹介したり、アイデアを出し合うなど参加者同士の友好を深める内容。二日目は、一日目に出た意見や発想を成果物としてグループごとにとりまとめ、発表しました。

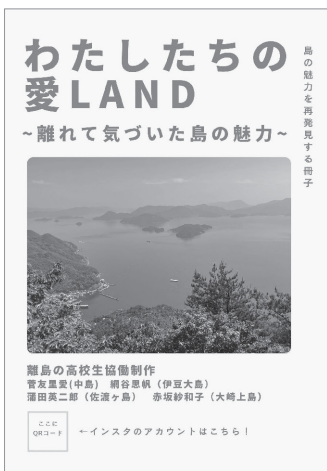
「みんなの島に遊びにいかうや！」グループは、メンバーの住む島々を巡る観光ツアーを企画。景観、食、アクティビティ、宿など各島の魅力を高校生ならではの視点で調べるのももちろん、島から島へ移動する最適な手段やルー



島の課題解決とレジャーを組み合わせた「島巡り×海岸清掃ツアー」の発表。



マスのイベントにこだわった「離島満喫ライフゲーム」。



島外に住む出身者からみた島の魅力を掲載する冊子『わたしたちの愛LAND～離れて気づいた島の魅力～』のイメージ。

トを考えました。また、島で課題となっている海ゴミを回収しながら各島をまわる「島巡り×海岸清掃ツアー」を提案したグループもあり、参加者たちから感嘆の声があがりました。「離島満喫ライフゲームづくり！」グループは、島の日常生活あるあるや島

のイベントなどを盛り込んだ人生ゲーム(すごろく)を作成。「近隣の人から魚をもらった2マス進む」や「頼んだ荷物より高い送料1回休み」などの離島に住んだことのある人なら誰もが共感できる内容となっており、発表を聞いた参加者たちからは「これは面白い

い！販売したら買う」ぜひ商品化してほしい！」などの感想が寄せられました。

「魅力や課題で新プロジェクト！」グループは、離島の人口が著しく減少しているという課題の解決策を模索。島の魅力を再確認し、それを島外に発信していくことで、住民の地域に対する誇りと愛着を強固にし、島外からの移住の促進にもつながるのではないかと考えました。そのために、まずは現在島外で暮らす島の出身者に「離れてみて改めて実感した島の魅力」を聞き取

り、それらをまとめた『わたしたちの愛LAND』離れて気づいた島の魅力』という冊子の制作と島に住む人たちへの配布を提案。エピソードの取材の仕方や、制作予算を募る方法など具体的な意見が飛び交いました。

二〇二四年も開催予定

サミットのクロージングで、菊地委員長は「実行委員会のメンバーで四月から準備をはじめ、夜遅くまで会議をしたこともありです。参加者同士が『思い合って、高め合』いながら、サミットがとて盛り上がったのは、委員会のメンバーや高校生たち、関係者の皆さんのおかげです」と、感謝の言葉を口にしました。

日本離島センターでは、生まれ育った島に対する想いを育み、将来の島づくりを担う人材の育成に向け、二〇二四年度も大正大学と共同でサミットをオンラインで開催する予定です。開催

時期は一月中旬もしくは一月中旬の日曜日で、今回と同様に同大学生と離島の高校生による実行委員会を組織し、学生・生徒たちが主体的にサミットの企画・運営を行なう計画です。詳細は適時、主催者のウェブサイトなどでお知らせしていきますので、サミットに関心のある離島の高校生、親御様、教育関係者の皆様は、ぜひご参加・お問い合わせください。

なお、本財団では今回のサミットの模様を映像にとりまとめました。ウェブサイト（※）から視聴可能なのでぜひご覧ください。

（森田）



※

アイランダー高校生サミットに関する
ご相談・お問い合わせ

（公財）日本離島センター
03-3591-1151（森田）



北海道から沖縄県まで17の離島の高校から延べ51人の参加があった。